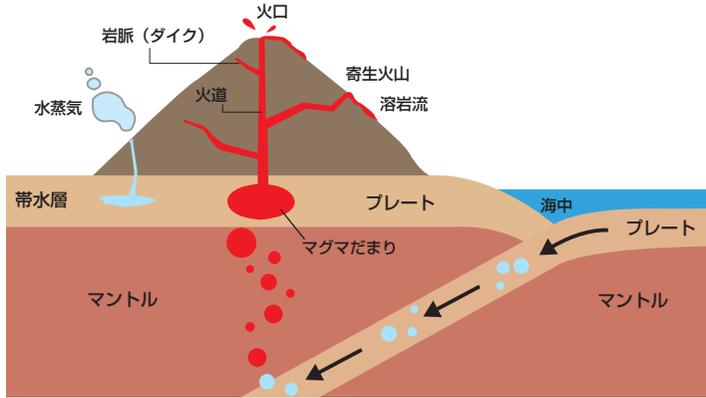


わが国は世界有数の火山国であり、その数は111にのぼります。  
その一つ十勝岳は、過去に何度も噴火を繰り返し、今も活発に活動する活火山です。

## こうして起こる、噴火のメカニズム

- 火山噴火は陸や海のプレートや地下のマントルの動きと深く関わっています。(右図参照)
- 地下深くにあるマントルは、温度が高い岩で出来ていますが、その一部が溶けて「マグマ」となります。
- 地球の表面を覆うプレートが、大陸の下に沈み込むときに、マントルの一部が溶けてマグマができるといわれています。
- マグマは、周辺の岩石よりも比重が軽く、高温な液体のため、地表から5～10kmの場所まで上昇して留まります。これをマグマだまりといいます。
- マグマに溶けていた水が水蒸気に変化するとき、体積は約1700倍に増えます。これが膨大な噴火のエネルギーを生み出します。



## 火山活動に伴う主な被害

The illustration shows various volcanic hazards. Labels include: 噴煙 (Ash plume), 噴石 (Falling rocks), 火砕サージ・火砕流 (Pyroclastic surge/flow), 溶岩流 (Lava flow), 降灰 (Ash fall), 降灰後の土石流 (Landslide after ash fall), and 降灰 (Ash fall). Text boxes provide details:
 

- 降り積もった火山灰と少量の雨で発生。木や石を巻き込み、速度を増しながら流れる。噴火警戒レベル 3～5 共通
- 噴火によって直径数cm～数10cmの岩石が飛び、時にはコンクリートを突き破ることもある。噴火警戒レベル 2～5 共通
- 吸い込むと肺・気管支に影響。降り積もると重みで木造家屋に被害が出たり、農作物、電子機器、交通機関に影響を与える。噴火警戒レベル 2～5 共通
- 950～1200℃程度と高温だが歩いて逃げられる速度。噴火警戒レベル 4、5
- 火山噴出物が高速で流れ下る現象で、非常に危険。噴火警戒レベル 3～5 共通

## 噴火警戒レベルと対応（避難行動）

### 火山に関する情報を正しく理解し、落ち着いて行動しましょう

- 気象庁は、平成19年12月1日から、噴火警報及び噴火予報の発表、噴火警戒レベル(下表参照)を導入しました。気象庁から発表される火山に関する情報や市町村から提供される避難情報等に十分留意し、落ち着いて行動しましょう。

### 「噴火警戒レベル」とは？

- 「噴火警戒レベル」とは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1からレベル5までの5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等の取るべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています。

### 【十勝岳の噴火警戒レベル】

種別	名称	対象範囲	レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応
特別警報	噴火警報(居住地)又は噴火警報	居住地及びそれより火口側	5 (避難)	居住地に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。
			4 (高齢者等避難)	居住地に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者等の避難等が必要。
警報	噴火警報(火口周辺)又は火口周辺警報	火口から居住地近くまで	3 (入山規制)	居住地の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活(今後の火山活動の推移に注意)。状況に応じて高齢者等要配慮者の避難の準備等。登山禁止や入山規制等危険な地域への立ち入り規制等。
			2 (火口周辺規制)	火口周辺	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内及び近傍への立入規制等。

注)「大きな噴石」とは、おおむね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散するものをいう。

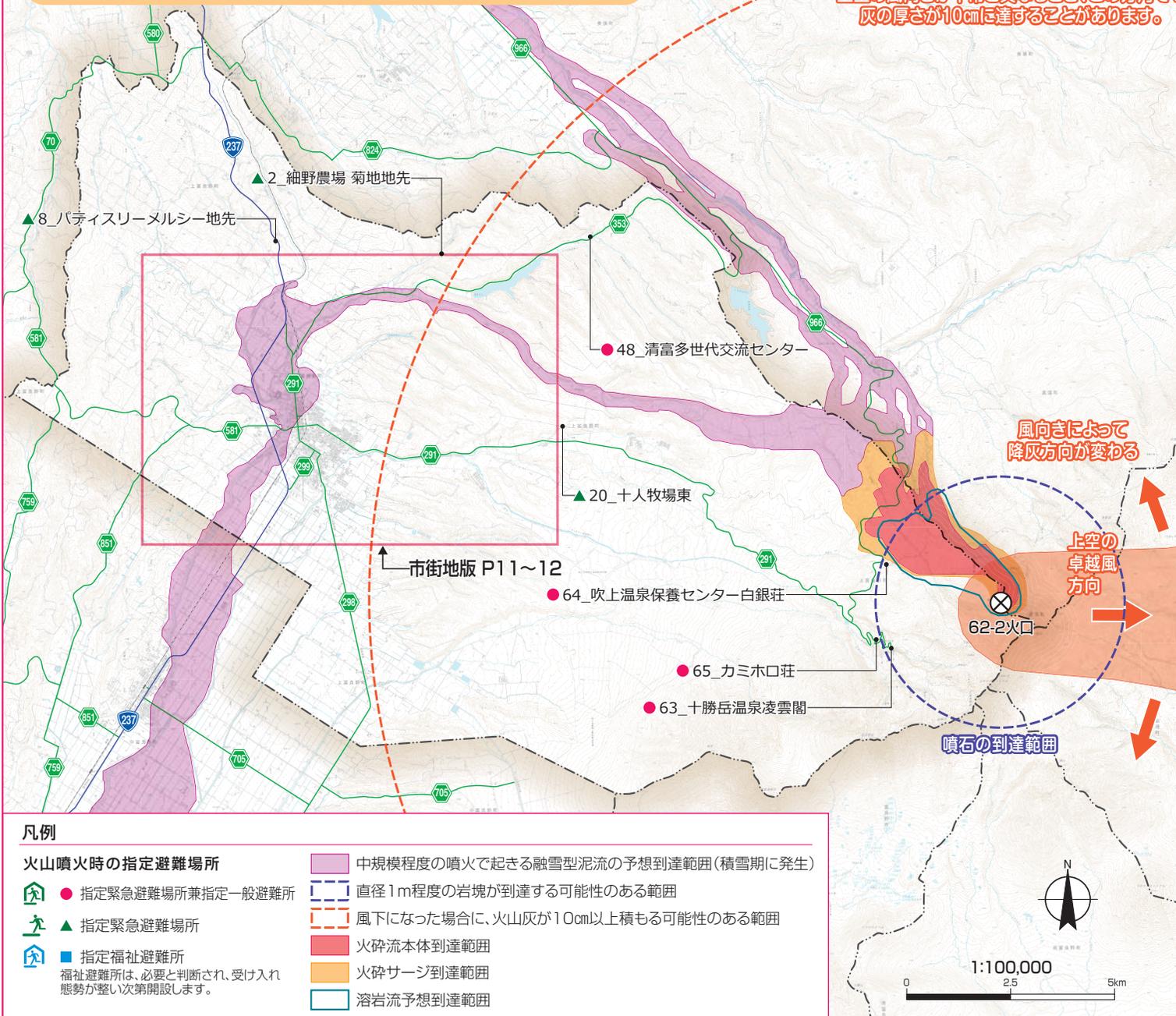
# 上富良野町 十勝岳火山防災マップ

## 上富良野町全域版

本マップは想定であり、実際とは異なる場合があります。  
噴火が発生したときには、実際の状況に合わせた対応が重要となりますので、状況の注視が必要です。  
なお、砂防施設の建設により泥流が到達する範囲が変わっています。

積雪期：融雪型火山泥流対策  
非積雪期：降灰・火砕流・火砕サージ・溶岩流・噴石対策

上空の風向きが平常と異なるとき、この方角でも  
灰の厚さが10cmに達することがあります。



■ この図は62-2火口※1 周辺で噴火した場合の噴火警戒レベル2(火口周辺規制)および3(入山規制)の規制範囲を示しています。  
※1 1962年に噴火した火口で、現在も活発な噴気活動が続いている火口です。  
■ レベル2は、活動状況に応じて規制範囲が変わります。  
■ 居住地域まで影響が及ぶ場合はレベル4(高齢者等避難)・5(避難)となります。  
■ 特定地域の十勝岳温泉、吹上温泉はレベル3(入山規制)で防災対応が必要です。

- 凡例**
- 主な登山道
  - 主な道路
  - 居住地域
  - 特定地域※2
  - 62-2火口(想定火口)
  - 市町村界
- ※2 特定地域：居住地域よりも想定火口に近いうちに位置する温泉等の施設が含まれる地域をさし、居住地域より早期に避難等の対応が必要になる場合があります。

- 登山道の規制範囲**
- レベル3：火口から概ね3km以内
  - レベル2：火口から概ね1.5km以内(グラウンド火口周辺)
  - レベル2：火口から概ね1km以内(避難小屋から上部、その他山頂へ通じる登山道)

- 凡例**
- 火山噴火時の指定避難場所**
- 指定緊急避難場所兼指定一般避難所
  - 指定緊急避難場所
  - 指定福祉避難所  
福祉避難所は、必要と判断され、受け入れ態勢が整い次第開設します。
  - 中規模程度の噴火で起きる融雪型泥流の予想到達範囲(積雪期に発生)
  - 直径1m程度の岩塊が到達する可能性のある範囲
  - 風下になった場合に、火山灰が10cm以上積もる可能性のある範囲
  - 火砕流本体到達範囲
  - 火砕サージ到達範囲
  - 溶岩流予想到達範囲

# 上富良野町 十勝岳火山防災マップ 市街地版

積雪期：融雪型火山泥流対策

泥流流下方向

**凡例**

**火山噴火時の指定避難場所**

- 指定緊急避難場所兼指定一般避難所 (赤い丸)
- 指定緊急避難場所 (赤い三角)
- 指定福祉避難所 (青い丸)

福祉避難所は、必要と判断され、受け入れ態勢が整い次第開設します。

中規模程度の噴火で起きる融雪型泥流の予想到達範囲(積雪期に発生)

